

# 海洋生物を意匠に用いた琉球切手

久保田 信

海洋生物の多様な分類群を意匠に用いた日本切手の大多数について、本誌で前回にまとめた(久保田, 1999)。今回はその続編として、そのような琉球切手を列挙する(表1)。

表1に示されているように、肉眼で認められる大型動物、現生の刺胞動物から脊索動物までが意匠としてよく登用されている(図1)。これらすべて純切手である。生物各種の和名だけ、あるいは和名と学名の両者が切手自体に記入されているものもある。和名については、2種類

の切手カタログ中の記載も参考にした。生物は著者自身でも同定したが、魚類については田名瀬英朋氏(瀬戸臨海実験所)の多大な御協力があり、ここに深謝する。表1では、切手は2種類のカタログ(表1 脚注)に挙げられている順(主として発行年代順)に従って配列した。

### 参考文献

久保田 信. 1999: 海洋生物を意匠に用いた日本切手. くろしお, (18), 9-12.



図1. 海洋生物を意匠に用いた琉球切手の各種

- 1: 琉球切手のうちで海洋生物切手として最初に発行された動植物シリーズ中(左: 一次、右: 二次)のアカクラゲ
- 2: 大型の海洋生物ジュゴン(Shogon)を意匠に登用した切手
- 3: 日本では琉球列島にしか棲息しないヤコウガイ(Shokougai)を意匠に用いた切手

表1 海洋生物を意匠にした琉球切手のリスト

カタログ番号 さくら <sup>1)</sup>	日本切手 <sup>2)</sup>	発行年	額面 (C)	海洋生物の和名
6 1	琉 4 1	1 9 5 9	3	ツノダシ
6 2	琉 4 2	1 9 5 9	8	タイコガイ、オウムガイ、 アミメダカラガイ
6 4	琉 4 4	1 9 5 9	1 7	アカクラゲ
6 9	琉 4 6	1 9 6 1	3	ツノダシ
7 0	琉 4 7	1 9 6 0	8	タイコガイ、オウムガイ、 アミメダカラガイ
7 2	琉 4 9	1 9 6 0	1 7	アカクラゲ
9 4	琉年 6	1 9 6 1	1 1/2	海鳥
1 1 4	琉記 3 4	1 9 6 3	3	サシバ
1 4 0	琉記 5 8	1 9 6 6	3	タイマン
1 4 5	琉記 6 2	1 9 6 6	3	ジュゴン
1 5 4	琉記 7 0	1 9 6 6	3	ハマノミ
1 5 5	琉記 7 1	1 9 6 7	3	ハコフグ
1 5 6	琉記 7 2	1 9 6 7	3	フエヤッコ
1 5 7	琉記 7 3	1 9 6 7	3	モングラコ
1 5 8	琉記 7 4	1 9 6 7	3	セグロチヨウチ
1 6 0	琉記 7 8	1 9 6 7	3	チヨウチ
1 6 1	琉記 7 9	1 9 6 7	3	ホネガイ
1 6 2	琉記 8 0	1 9 6 8	3	スイジガイ
1 6 3	琉記 8 1	1 9 6 8	3	ヤコウガイ
1 6 4	琉記 8 2	1 9 6 8	3	ベニソデガイ
1 7 6	琉記 9 4	1 9 6 8	3	ミナミメダカ
1 7 7	琉記 9 5	1 9 6 9	3	リュウキウ
1 7 8	琉記 9 6	1 9 6 9	3	ヤクジャ
1 7 9	琉記 9 7	1 9 6 9	3	キターザ
1 8 0	琉記 9 8	1 9 6 9	3	ツノメダカ
2 0 3	琉記 1 1 5	1 9 7 0	3	ツノダシ、ハマクマノミ、 ロクセン、スズメダイ、 アケボノチヨウチ、ウウ オ、オ、フエヤッコ、 一種、？、カサゴ、 ？、タカサゴ
2 2 5	琉記 1 3 5	1 9 7 2	5	セグロチヨウチ、 アオヒトデ、 ミドリイシ類
2 2 6	琉記 1 3 6	1 9 7 2	5	海鳥

1) さくら日本切手カタログ2001 (財団法人日本郵便協会編集・発行)  
 2) 日本切手カタログ2000 (日本郵便切手商協同組合編)

京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 西牟婁郡白浜町)